

## 七夕の歴史・由来

七夕のお話は、中国古代の民間伝承がもとになっています。韓国やベトナムにも七夕があります。

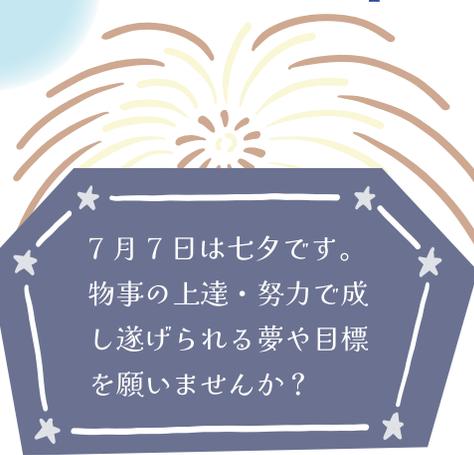
日本には、奈良時代に宮中儀式として伝わり、織姫が機（はた）織りの上手な働き者だったという内容から、手芸や裁縫の上達を願う風習につながりました。星に願い事をする原型はここから始まっています。ちなみに七夕と書いて「たなばた」と読むのは、日本では古来、神事などに使う高貴な布を織る行為をたなばた（棚機）と呼んでいたため。本来なら「しちせき」と読む外来語に、「たなばた」という大和言葉当てたようです（諸説あり）

## 七夕の笹飾りの短冊に願い事を書くのはなぜ？

短冊に願い事を書くのは、「乞巧奠（きっこうでん）」に由来します。「乞巧奠」では、貴族が手芸、詩歌、管弦楽、文字などの上達を願い、梶の葉に文字を綴っていました。

## 乞巧奠とは…

陰暦七月七日の行事。乞巧は技工、芸能の上達を願う祭。もと中国の行事であるが、日本でも奈良時代以来、宮中の節会（せちえ）としてとり入れられ、在来の棚機津女（たなばたつめ）の伝説や祓（はら）えの行事とも結びつき、民間にも普及して現在の七夕行事となった。



7月7日は七夕です。  
物事の上達・努力で成し遂げられる夢や目標を願いませんか？

## 新たな期を迎えて

森 直樹（代表取締役社長）



森松株式会社は7月14日をもちまして創業より70周年を迎えることとなります。また、6月21日より新たに66期をスタートします。企業が70年間継続できるということは、周囲を取り巻く環境の変化に対応し、自らを変革し続けることが出来たということと同時に、その企業に属する人達の持つエネルギー、熱量がそれだけの年月維持できたということでしょう。しかし、1人の人間がいつまでも同じ力を発揮し続ける事は難しいことです。その企業の持つ文化、伝統を次の世代が引き継ぎ、かつさらにそれを磨き続けることでより良いものになっていくでしょう。森松の根幹には「今、ここ・私」という言葉に表されるように、自分自身に「今ここで、私はなにをすべきか」と自問自答し、そして行動することで今があります。これからの将来、80年、90年、そして100年と森松が存続、発展していくには欠かせない姿勢ですが今期はあらゆる原料の価格上昇、そして環境配慮によるプラスチック品を使用することへの抵抗感と、森松、ひいてはプラスチック業界全体にも変化、いやむしろ逆風となる状況です。そういった時こそ企業の存在意義が問われ、そしてまた自分自身には次の一手を問い、行動していく。大きな変化にも恐れる事なく、森松全社で新たな時代を切り開いていきます。

## 木下大サーカス

安井 浩二 (企画営業部)



木下大サーカスを観てきました。サーカスは幼少の頃に連れて行ってもらった記憶がありますが、演技の内容はほとんど覚えていなかったのが実際には初めての体験と思います。ピエロのパフォーマンスで会場を沸かせショーの始まりです。まずは、空中アクロバットショー。つりロープや大車輪の演技ではスリル満点。スーパーイリュージョンではよくTVで見ますが、タネはわからず生の迫力を感じます。ホワイトライオンによる猛獣ショーでは、派手な演出はありませんが、よく調教されたと思います。また、ムチのビシッという音は会場に響き渡り緊張感がありました。続いてオートバイショー。球体の中にバイクが1台、2台、3台とタテ、ヨコにぐるぐると走り回ります。少しでも接触したら大惨事に…。すごいテクニックです。そして、最後の演出は空中ブランコショー。「かかとかげ」や「目隠し」数々の演技に思わずハラハラ、ドキドキ！ちなみに木下大サーカスは120年の歴史で世界3大サーカスの一つ。“赤い魔法の大テント劇場と喜びに溢れた最高のエンターテインメントを創造してゆき夢と感動と笑顔をお届けすることを約束します。”と紹介されています。現代の技術ではCG画像や精密なロボットの演出も素晴らしいですが、やはり生身の人間によるパフォーマンス、会場での臨場感がまさにエンターテインメントと思いました。今回、私は自由席で観ましたが、正面のリングサイド席でしたらもっと興奮したかもしれません。また機会があったら、孫を連れて(未定)観に行きたいと思います。

## シンウルトラマン

吉岡 孝記 (営業部)



先日、映画館でシンウルトラマンを見てきました。この年でとも思いましたが、非常に懐かしく楽しく見せていただきました。小学生から中学生ぐらいまで良くテレビで見っていました。昔は、今のようなCG技術もなく、飛行機などは吊るした糸が見えたり、戦車はプラモデル、手から水を出すシーンでは後ろでホースが見えたりと手作り感いっぱい、これがまた良かった気がします。製作は、かの有名な円谷プロダクションでウルトラマンシリーズは日本の特撮テレビドラマシリーズであり、なんと50年以上にわたって継続されています。2013年に「最も派生テレビシリーズが作られたテレビ番組としてギネス世界記録に認定され2015年にはその記録を更新しているそうです。新作「ウルトラマンデッカー」が7月にスタートするそうで歴代48人目のウルトラマンだそうです。50年にわたり世代の子供を楽しませるすごいことだと感心します。また、今回のシンウルトラマンの監督は庵野秀明氏です。庵野氏と言えば有名なアニメクリエイターですが、ヒット作の21年のシン・エヴァンゲリオンは興行収入102.8億円を稼いだそうで、2016年にはシンゴジラの監督も勤めています。今までのゴジラ映画とは違った切り口で楽しませてもらいました。次の作品はシン仮面ライダーだそうです。また、観に行こうかな。55歳を超えると割引が有りありがたいかぎりです。また少し映画館に通ってもいいかなと思います。

## 朝も神奈川、夜も神奈川

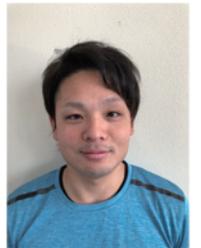
河嶋 桂子 (東京オフィス)



朝の連続テレビ小説「ちむどんどん」は沖縄から神奈川横浜市鶴見区に主人公の活躍する舞台が変わり、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」は神奈川県鎌倉市が舞台の中心でNHKの人気ドラマがいずれも神奈川県という事で、駅には関連のポスターをよく見かけます。横浜市鶴見区には横浜 沖鶴地区「沖繩タウン」があります。横浜と沖繩ってどんな縁かなと思い、その歴史を少し調べると明治時代にさかのぼりました。浅野財閥の創始者で、京浜工業地帯の生みの親と言われる浅野総一郎らが「鶴見埋立組合」を設立し、事業を開始しました。その工場などで働く人が沖繩を中心に全国から集まり、その人々が住む街として発展してきたためと、横浜市のサイトなどにはなっています。明治から昭和にかけて第二次産業は盛んで、東京大田区から川崎市や横浜市は工業地帯でした。特に沖鶴のある鶴見地区には浅野財閥により積極的な開発が行われたため、労働力が必要となります。当時は農業が中心だった沖繩県民が収入を得るために、大阪や横浜に出稼ぎへ上京しました。出稼ぎの人々が街を作ったため「沖繩タウン」が出来て、現在でも区内各地に沖繩の物産展や飲食店が存在し、エイサーなどの伝統芸能の催しも行われているようです。「沖繩タウン」は、鶴見駅から鶴見川に架かる潮鶴橋を渡った場所にあり、鶴見駅から歩くと約30分かかるあたりです。沖繩ならではの食品・雑貨を取り扱う「おきなわ物産センター」や沖繩料理を提供する飲食店があつて、是非一度訪れてみたいと思っています。横浜は、そもそも開港の街で昔から色んな人を受け入れてきました。そんな優しさが沖繩の人と文化を受け入れてきたのかも知れません。コロナ禍で遠出はしたくないけれど、沖繩に行った気分を味わいたい！そんな方にもおすすめな街ですね。そして横浜駅から鎌倉は、電車で30分で行けて、とても有名な観光地です。6月は紫陽花が美しいお寺や神社が多く、とても賑わっています。テレビを見て神奈川の良さを見直している、神奈川県民の今日この頃です。

## コロナ渦での変化

加藤 俊輔 (裁断部)



約2年前からコロナウイルスが世界中で広がり、世界規模のものから自治体が行っているような小さなものまでいろんな行事が中止となりました。私は5つほど野球チームに入っていますが、すべての大会が中止となり、練習試合やただの練習すらグラウンドを借りてやっている近隣から苦情が入りグラウンドを貸せないと言われてたり、チームが解散したところもありました。ほとんど毎週土日でやっていたのが半年に一回練習試合ができるかどうかという状況でした。今までは土日には野球で家を半日は出かけていましたが、家から全く出ることのない1日は何か退屈でモヤモヤしていました。そんな日を払拭するべく時間が空けば筋トレをして、少しでも体を動かしていました。前々からやってはいましたがさらに力を入れられるようになり、2年前よりは一回り大きくなり成長するのが楽しくなっていました。そしてようやく今年、大会やリーグ戦が開催されることとなり試合に出てみると打球のパワー、飛距離が格段に上がっていました。サードの守備につくと体重が増えた分重くて守備範囲が狭くなりマイナス要素も感じました。ですが捕手をやる時はかなり守備範囲が広くなりました。内野と捕手の守備は全くの別物で、座っている体勢から素早く立ち上がらなければいけません。いくらキャッチャーフライに反応していても素早く立ち上がる脚力がなければ追うこともできません。今年が始まってから低いキャッチャーフライも取れるようになり少し感動していたとこでした。そんな中つい先日、3年ぶりにマウンドに上がり投げていると太もも強化の影響で低めの球の安定感と球威が調子に乗っちゃうほど上がっていました。コロナで暗いことばかりだけどコロナだったからこそできたこともあると思うことができ、この先不都合や嫌な出来事が起きてもマイナスにばかり見ず、その中で自分に何ができ、どう成長につなげられるかを考えていきたいと思い、人はいくつからでも変化・成長できるものだなと感じました。

# New

## 倉庫の扉を塗り替えました!!



### POINT!!

CHECK

塩ビにプリントしたシートを貼ることで耐久性が上がりました!

CHECK

道路からQRコードの読み取りができるようになりました!

近くにお立ち寄りの際は是非チェックしてみてください!!

ドン!!

CHECK!!

### 娘の修学旅行と防災

山田 香里 (特販部)



中3の娘が2泊3日で関西方面に修学旅行に行ってきた。コロナ禍で中2の時の稲武野外学習は中止になり、合唱コンクール等行事が色々中止になる中で、中学校最後の修学旅行は無事に行く事が出来ました。今年は大阪、神戸、福井とバスで行きました。あいにくの雨でしたが、ユニバーサルスタジオや、神戸の北野異人館、人と防災未来センター、福井では体験学習でポート漕ぎをしたそうです。その中でも阪神淡路大震災記念の「人と防災未来センター」に行って改めて災害、防災について考えたようです。実際の資料や写真の展示、地震破壊のすさまじさを迫力ある大型映像と音響で体感したそうです。特に映画・ゴジラの特撮技術監督として著名な故・川北紘一氏(当時、東宝映像美術の特撮監督)を起用し、最高の特撮技術とCG合成技術で地震体験を再現する1.17シアターはリアルでとても怖かったそうです。阪神淡路大震災で揺れてびっくりして起きたのを思い出しました。私も機会があったら是非行ってみたいと思いま



す。この地方もいつか南海トラフが来るとずっと言われていますが、つい忘れがちになってしまっています。防災グッズ等も用意してありますが、久しぶりに中を確認すると期限切れのものがたくさんありました。改めて災害、防災について考えさせられ、定期的に色々と確認し、常日頃から災害を意識しないといけないと思いました。そしてバス移動が長い中、事故もなく、無事に修学旅行に行ってきた事にほっとしつつ、友達と良い思い出が作れて良かったなと思います。